

性と生を育てる

～親（保護者）として思春期の子どもとどうつき合うか～

村瀬 幸浩

1、思春期とはどんな時期なのか

家族でのトラブルや学校でのトラブルのほとんどは、この時期に顕在化することが多い。

それはなぜ？

- a.子どもから大人への端境期…「性的な成熟」と「精神的自立」が重要な発達課題
- b.初経・精通から始まる数年間…からだの機能からみれば妊娠する（させる）力を持つようになる
…ホルモン分泌の変化はこころのはたらきに大きく影響する（個人差は大きい）
- c.新たな不安…悩み（アンバランス・アンステディ・コンプレックス）に見舞われることになる。場合によってひきこもり、うつ、自傷、いじめ、自死への誘惑、性的接近など「社会化」をめぐる問題に直面することも…伴走者としての同性の年長者の存在、自分を支える自己肯定感の有無など問われる（タッチングからリスニングへ）…資料参照

2、生理的・心理的な揺らぎの源にホルモン分泌の急激な変化がある

a.月経に対するマイナスイメージの払拭は、成熟した女性として生きる上で不可避のテーマ
汚物入れ、終湯などの表現にみられるネガティブな意識イメージ

居場所を求めてさまよう女子の性と生…分離・孤立によって脅かされる

（誘惑に惹かれやすい）

b.放置されている（きた）男子の性の学び

- (1) 学ぶ機会が決定的に少ないままである（科学として、関係性を育てるものとして）
- (2) 自分の性を肯定できないまま、人の性にやさしくかかわっていくことは難しい
（大人も子どもも）
- (3) 射精学習のすすめ・・・マスターベーションをセルフプレジャー、セルフケアとして
- (4) 愛着によって脅かされる・・・自立を損なうものとして
- (5) 男子の性被害
- (6) AV・ポルノ動画はどう考えるか？

3、つき合い方のポイントとして

a.親子とはいえ、思春期をすぎた時期には互いに「他者」として距離をとりつつ関わること

b.同性の親（保護者・年長者）が同性の子どもの発達に責任をもつこと

c.性の多様なあり方について、理解する努力をする

〈自己肯定感を高めたり、おとしめたりする働きかけ・ふるまい〉				
	相手の存在や価値を認める 肯定的な働きかけ		相手の存在や価値を軽視・無視したりする 否定的なふるまい（ディスアカウント）	
身体的な (肌の) ふれあい	なでる	髪をとく	なぐる	ひきずり廻す
	抱く	相撲をする	蹴る	せっかん
	キスする	マッサージする	つねる	
	ほおずり	指圧する	髪をひっぱる	
	手をつなぐ、握る	手当する	おさえる	
	肩をくむ		ひじ鉄砲する	
	ふざけっこする		ぶつかる	
	指相撲		物をぶつける	
	爪を切る		つきとばす	
	耳掃除		押す	
	一緒に風呂に入っ て洗ってやる		ひっかく かみつく	
	精神的な (心の) ふれあい	ほめる	ねぎらう	皮肉をいう
うなづく		相手の話をよく 聞く	にらむ	過剰な干渉
ほほえむ			いやみをいう	過剰な保護
はげます		手紙を書く	けなす	とりあげる
会釈する		わけが分かるよ	嘲笑する	嘘をいう
拍手する		うに本気で叱る	冷笑する	かげ口をいう
目礼する		信頼する	目をそらす	無関心
一緒に遊ぶ		まかせる	顔をしかめる	仲間はずれ
あいさつする		身を乗り出す	ソッポを向く	情報を流さない
話しかける			命令する、禁止する	
プレゼントする			呪いをかける	
相手の目を見る			とりあわない	

条件付きの愛情

条件なしの愛情